

## Lecture and Exercise in Electric Circuits

3 units (selection)

Tetsushi Ueta · PROFESSOR / INTELLIGENT SYSTEMS, DEPARTMENT OF INFORMATION SCIENCE AND INTELLIGENT SYSTEMS

**Target)** コンピュータや通信ネットワークなどの情報システムを扱う情報技術者や研究者に必要な電気回路の基礎を、講義、演習・レポート、部分テストを通して修得させる。

**Outline)** 情報処理技術者として修得すべき電気回路理論の基礎について学ぶ。数理モデルとしての回路トポロジーの重要性、フェザー法の原理とインピーダンスの概念、周期的な信号源の印可とその応答に関する力学的価値観を養う。また、端子対による回路のパラメタ表現、その組合せや解析法について理解し、物理対象の系統的取り扱い方法を学ぶ。

**Keyword)** Kirchihoff's law, phasor method

**Fundamental Lecture)** “Basic Mathematics/線形代数学 I”(1.0), “Basic Mathematics/線形代数学 II”(1.0), “Basic Mathematics/微分積分学 I”(1.0), “Basic Mathematics/微分積分学 II”(1.0), “Introduction to Computer”(1.0), “Introduction to Programming”(1.0), “Electricity and Magnetism”(1.0), “Exercise in Electricity and Magnetism”(1.0)

**Relational Lecture)** “Linear System Analysis”(0.3), “Electronic Circuits”(0.4), “System design and experiment”(0.5), “Instrumentation System”(0.3)

**Requirement)** 線形代数学 I, II, 微分積分学 I, II (全学共通, 基礎数学) コンピュータ入門 1・2, および, 電磁気学, 電磁気学演習の履修を前提とする。

**Goal)**

1. 物理システムとして動作する電気回路と、抽象化された数理モデルとしての電気回路の両側面をバランス良く理解
2. 設計や解析への糸口を見逃さない観察力・洞察力を養う。

**Schedule)**

1. 基礎的なことから・演習
2. キルヒホフの法則と回路解析初歩・演習
3. 重ね合わせの理, テブナンおよびノートンの等価回路・演習
4. フェザー法基礎 I・演習
5. フェザー法基礎 II・演習
6. 複素インピーダンスとフェザー図・演習
7. 複素電力・演習
8. 共振回路・演習
9. ブリッジ, 整合・演習
10. 中間試験

11. 回路の定常解析法・演習
12. 相互誘導回路と理想変成器・演習
13. 制御電源・演習
14. 二端子対回路・演習
15. 定期試験
16. 総括講義

**Evaluation Criteria)** 受講態度 (10%), 定期試験 (80%) および黒板板書による演習 (10%) の結果にもとづいて成績を評価する。

**Textbook)** 小澤孝夫 著「電気回路を理解する」 昭晃堂

**Reference)** 適宜用意する

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216171>

**Student)** Able to be taken by only specified class(es)

**Contact)**

⇒ Ueta (AIT 507, +81-88-656-7501, [tetsushi@ait.tokushima-u.ac.jp](mailto:tetsushi@ait.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (Office Hour: Wednesday afternoon)

**Note)**

- ◇ 高校物理および要件としてあげた科目の習得を前提として講義を進めるので、各自がこれらの科目を十分復習することが重要。また、レポート課題は計算機を用いる場合があるので C 言語やグラフ作成ソフトが使いこなせるようにしておくこと。
- ◇ 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
- ◇ 授業計画 1~ 15 は、総括講義において中間・期末試験の結果をもとに達成度評価を行なう。